

令和7年度 第2回学校運営協議会 議事録

日時：令和7年11月26日（水） 15:40～17:00

会場：本校会議室

司会 石原副校長 書記 広報連携 Gr

【次第1：委員長挨拶】

小田原北高校の新校設置計画を県のホームページで読むことができた。非常に魅力的なカリキュラムが設置されていて、これからワクワクするような学校になっていくのではないかと期待している。今後校内での引越し作業が待ち受けているが、体に気を付けて取り組んでもらいたい。新校が出来上がるプロセスに様々な形でコミットしていくことは、先生方のこれからのキャリアにとっても有意義な経験となるので大変であると思うがぜひ頑張っていたきたい。運営協議会の委員として応援したい。

【次第2：校長挨拶】 第2回資料「令和7年度の小田原城北工業高校」（学校長）を参照

石川校長： 11月1日発表の県の広報により正式に小田原北高校としてスタートすることになった。本日出席している総括教諭全員に城北工業高校と大井高校のとの兼務辞令が発令されている。来年4月には大井高校の3学年が本校と合流し教育活動がスタートする。教職員もそれぞれの長い伝統と文化的背景を持った組織が合体してスタートするわけで、生徒にとっても教職員にとっても強いストレスが待ち受けていると思う。ダブルスタンダードが生じてしまうようなことが起きないように生徒一人ひとり丁寧に向き合って準備しファイナルカウントダウンを進めていきたい。

資料の3. 学校行事

9月、11月に2回にわたり学校説明会が行われた。参加人数については工業科は例年とほぼ同様の参加人数であったが、普通科については増加した結果になっている。志願者増につながればと思う。

資料の5. 中・県西地域 普通科（クリエイティブスクール）専門学校（工業科）併置校

ハード面・ソフト面での課題の取り組み状況を記した。

資料の6 令和7年度の学校運営課題

課題3「総合的な探究の時間」に関する探究学習の質を向上させる

PTを立ち上げ1月をめどにまとめる予定。地域企業、学校、生徒と家庭この3者が一体となった組織を作り、横断的・総合的な学びを狙いとし生徒自身が主体的に課題に取り組める環境を構築する。このような「新校版のコンソーシアム」を立ち上げることを肝にしている。地域社会・企業・大学そして家庭の方々と共に学び生きる力、実社会で活用できる能力を身に付けた幅の広い人材育成を目指したい。

【次第3：内容】

(1) 令和7年度中間報告

イ 不祥事ゼロプログラム中間評価について

○石原副校長

4月から11月まで本年度不祥事ゼロプログラムをもとに、全日制・定時制それぞれ会議と研修会を進めている。教職員自身が主体的にテーマを見出し、課題や問題点を共有した。

ア 学校評価報告書中間報告について

○鈴木 秀昭 全日制 学務G総括教諭

資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（全日制）1.教育課程・学習指導①
を基に説明

研究授業を行い、全職員で協議を行った。今後も授業改善を進めていく。
定期試験の採点が来年度以降システム化される。また新校スタートに向けて成績処理方法や定期試験の運営についても大井高校と協議を続けている。

○能政 広毅 全日制 学校管理G総括教諭

資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（全日制）5.学校管理・学校運営①
を基に説明

新校に向けて大井高校が入るS棟を中心に整備が進められている。今年度中にHR教室に電子黒板が配備される。ICTハード面でのインフラ進行に伴って施設管理面での専門性が求められ、人材育成と人材確保が急務になっている。

○近藤 博 全日制 生活指導G教諭

資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（全日制）2.生徒指導・支援①
資料：(4)生活指導
を基に説明

10月までの生徒指導案件が昨年と比べて大幅に減少した。しかし案件の中には重たい事案もあり、迷惑行為も増加した。学年別では2学年が4件と最も多い。

○中島 勉 全日制 進路指導G総括教諭

資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（全日制）3.進路指導・支援
資料：進路状況の中間報告（令和7年10月末現在）
を基に説明

インターシップの参加率が僅かではあるが増加した。今後もインターシップに関する生徒への周知方法を工夫して参加者を増やしたい。

3年生の就職希望者(90人)のうち内定率は81.1%。公務員は1名合格。進学者数については例年と同様な割合を示している、特に専門学校への進学者が多い。

○三浦 茂和 全日制 広報連携G総括教諭

資料：令和7年度学校評価報告書(中間報告)(全日制)4.地域等との協働①②

資料(6)-1 神奈川新聞～6 タウンニュースなど掲載記事を基に説明

学校説明会に参加した中学生に実施したアンケートで「進路選択の参考になった」と答えた参加者が3割にとどまった。アンケート内容も含めて改善が必要だ。昨年からご指摘いただいている地域への情報発信について、今回は、参考資料として生徒の地域での活動がメディアなどに取り上げられた事例を添付した。回覧板などで利用していただけるようお願いしたい。

○杉山 弘明 全日制 生徒支援G総括教諭

資料：令和7年度学校評価報告書(中間報告)(全日制)2.生徒指導・支援②

資料：令和7年度 部活動等の主な実績を基に説明

新校に向けて生徒の方も生徒会役員を中心に様々な課題に取り組んでいる。両校で新校生徒会部という組織を作り学校行事、委員会活動、部活動などの方向性を探ってきた。新しい校歌についても歌詞について生徒自身で作詞に取り組んでいるところだ。

部活動の実績については(7)-1を参照。両校の部活動も合同するため、新年度から内容の精査も求められる。

○三浦 茂和 全日制 工業教育推進G総括教諭

資料：令和7年度学校評価報告書(中間報告)(全日制)1.教育課程・学習指導②

資料(6)-1 神奈川新聞～6 タウンニュースなど掲載記事

資料(8)-1 工業関係資格取得 令和7年度状況および令和6年度結果

資料(8)-2 令和7年度課題研究発表会開催について

を基に説明

資格取得に挑戦する生徒の割合は昨年同様に推移している。電気系の第2種電気工事士については受験者、合格者ともに大幅に増えた。電気科教員による、始業前・放課後に行われる手厚い指導の賜物である。

ものづくりコンテストにも各分野から積極的に参加している。電子回路組立部門では県準優勝、関東6位という結果を収めた。今後も長期的な計画の下で成果を後輩の生徒へ引き継いでいくことが大切だ。

本校生徒が工業高校で学んだ成果を地域に貢献する形で活動している。年度前半にメディアなどに取り上げられた事例を添付した。

R8年1月22日に課題研究発表会を開催する。本委員や地域の方々にもぜひご臨席いた

だきたい。

○石原 英之 副校長

資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（全日制）5.学校管理・学校運営②
を基に説明

教職員の働き方改革や不祥事の未然防止の取組みを行っている。勤務時間管理システムを活用して時間外在校等時間（いわゆる残業）の職員ごとの分布を全教職員で共有している。月45時間以上（残業）在校している教職員が13%、人数で10人程度存在する。特に多い傾向にある総括教諭ほか業務が集中しがちな教職員に対しては、周りの職員が帰りがけに一声掛けて業務をできるだけシェアしようという取組みを進めている。

○井上 正隆 定時制 学務・管理G総括教諭

資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（定時制）1.教育課程・学習指導①②
資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（定時制）4.地域等との協働①②
資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（定時制）5.学校管理・学校運営①
資料（9）：令和7年度第2回学校運営協議会資料（定時制）
を基に説明

今年度は秦野総合や伊勢原の定時制課程が募集停止になることから積極的に中学校訪問を実施した。11月に入り定時制への学校見学希望者が増えた。

三修制に取り組んでいる生徒は3年目に入った。良好な成績を修めていて卒業見込みである。

資格取得については、全日制同様第2種電気工事士の受験者が増加した。また国家資格の無線従事者を取得した生徒もいた。

酒匂川増水時の一時避難所という位置づけがあることから、地域自治会と連携した夜間避難訓練の充実を図りたい。

○千葉 正郎 定時制 生徒支援G総括教諭

資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（定時制）2.生徒指導・支援①②
資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（定時制）3.進路指導・支援①②
資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（定時制）1.教育課程・学習指導③
資料（9）：令和7年度第2回学校運営協議会資料（定時制）
を基に説明

本年度在籍数30名でスタート。スクールサポートドックを活用してSCやSSWとの面接も全員実施した。

卒業予定者は7名。うち三修制の生徒は4年制大学へ進学予定。就職では1名の生徒が海上自衛隊より内定をもらっている。

部活動ではバスケ部バドミントン部ともに体育館の耐震工事で活動が縮小した状態が続いた。コンピュータ部が4年連続全国大会出場を目指して頑張っている。地域連携

活動では9月19日に地域清掃活動を実施した。

○佐藤 秀世 定時制教頭

資料：令和7年度学校評価報告書（中間報告）（定時制）5.学校管理・学校運営②

働き方改革の推進や不祥事の未然防止の取組みを行っている。特に不祥事防止項目に沿った担当グループ・班を設定し、業務が集中することで事故発生を誘発することが無いよう工夫してきた。また事故防止研修会もマンネリ化することが無いようグループごとに主体的に分担し、校務の協働による問題意識の共有を進め、当事者意識の醸成を図っている。

(2) 質疑応答・意見聴取

○小木委員 東栢山城北自治会長

本日学校の中を見学したが、新校スタートへ向けて慌ただしく工事が進められていることに驚いた。制度面での整備も含めて学校全体が忙しく動いている中で、従来通り地域自治会としてこのような会議に参加できることに感謝している。これからもよろしくお願ひしたい。

○鈴木 秀昭 全日制 学務 G 総括教諭

8月の小学生対象親子モノづくり体験教室の開催に際して、小木自治会長には大変お世話になった。募集定員に対して応募者が少なかったところ、案内を回覧板で回していただき多くの参加を得ることができた。

○宮内委員 桜井地区自治会連合会長

資料：学校評価5 学校管理・学校運営②のところで全日制、定時制共にいわゆる（残業時間）に偏りができる問題を平均化して解決を探るとしているが、経験上民間の会社でも一つの仕事を平均に分業化する作業は難しく、業務の偏りというのは発生してしまう。難しい問題だなと思う。

桜井地区だけでも城北工業高校出身者の自治会員はたくさんいる。皆さん地域の学校として関心は持っていると思うが、誰でもが県のホームページを開いて内容を確認できるわけでもない。4月にスタートする新校の名前や中身あるいは新しい校歌など新校の情報を、少なくとも桜井地区、富水地区、東富水地区などゆかりのある地域には学校の側から積極的に情報を発信してもらいたい。

大井高校にも学校運営協議会があると思うが、統合に向けて本校の協議会と意見交換できるような場があってもよいのではないかな。

○石原 副校長

仕事の平均化について意見をいただいた。この会議に出席している教員は総括教諭だが、まさに業務が集中しがちの立場である。起案等事務手続きの

簡略化など目に見えているところから手を付けている。

○石川 校長

新校の情報については近隣の桜井地区、富水地区、東富水地区などには SNS だけに頼ることなく、回覧板など紙の媒体などを活用して発信していきたい。

大井高校の運営協議会との意見交換の機会を設けるとのご意見については、大井高校の方にも予定があると思われるので、こういう考えが出されたことを伝えたい。

○府川委員 小田原市役所市民部地域政策課

8割の生徒が就職される中、行政に身を置く立場から、進路先は地元企業を選択してほしいという気持ちだ。商工会議所などが主催して地元企業を紹介する催しを開いているが、人手不足の状況が続きなかなか人が集まらない。進路を指導するにあたってぜひ地元企業を積極的に紹介してもらいたい。

また、高校3年間を通じてしっかりとした職業観を育成させることにも努めてもらいたい。工業高校という性格上早い時期から様々な場面で職業意識を植え付ける場面は多いと思うが、就職先でミスマッチが起こることが無いよう指導してもらいたい。

○中島 勉 全日制 進路指導G総括教諭

本校生徒の進路選択の傾向として就職先は相模川以西の企業を選択する生徒が非常に多い。新校がスタートして総合的な探究の時間を活用して積極的に地元企業と交流する機会も増えると思われる。これまでも実施している進路ガイダンスでのカリキュラムに加え「新校版コンソーシアム」を活用して職業意識の涵養に努めたい。

○小林 小田原箱根商工会議所経営支援部経営支援二課長

生徒へのメンタルケアの体制について質問したい。会議の冒頭、石川校長から異なる文化を持った学校が合同する上で生徒に相当なストレスがたまるかもしれないという報告があった。商工会議所で相談を受ける若い起業家たちの話を聞いているとストレスの掃き出し窓の役割が大切なことがわかる。両校の生徒に対するメンタルケアについて、4月からどのような体制で取り組もうとしているのか伺いたい。

○近藤 博 全日制 生活指導G教諭

現時点では具体的に組織だった対策はとれていない。ただ、ハード面で保健室の配置が変わり、容積が倍以上に大きくなる。広くなることで養護教諭との相談もしやすくなると思う。

○桑原 小田原市立桜井小学校長

最近6年生と話す機会があり、オートバイに関心を持っている児童が迷惑行為について話題にしていた。高校生徒とは年齢も離れているので心配はしていない

が、中学生や高校生と絡んだ事案が発生することも考えられるので、そのような時は情報を共有したい。

○富田 小田原市立城北中学校長

先ほどの特別指導の話で新年度4月に事案が集中するという話を聞くと、送り出す側の反省も感じる。

先日の全校集会で城北工業の生徒が小田原警察署での免許証更新手続きについて動画を作成して来場者への案内に貢献しているという話をした。また、3年生を対象に進路面接を実施しているが中学生は高校に対して大きな夢を持っていて、城北工業を希望する生徒も工業系の学びを深めたいと話していた。

そんな中で中学校が進路指導をするにあたり教員側が工業高校についての知識をほとんど持っていないことを痛感する。昨年運営協議会の前に行われた授業見学に参加して、少人数編成で落ち着いていて個々の生徒に対応した実習の授業風景にとっても良い印象が残っている。中学校教員の中に工業高校出身の先生がほとんどいない中で、工業高校を紹介することはとても困難だ。中学校教員対象の学校見学会などがあればもっと距離が近くなるのではないか。

○小松 PTA会長

これまでの意見の中にも触れられていたが、延べ18,000人の卒業生たちは城北工業の名前が無くなることと、新しい学校が生まれることに強い関心を持っていると思う。私も地元自治会で役員をしているが14名の役員のうち4名が本校の卒業生だ。学校からの積極的かつ丁寧な情報発信は大切だ。

子供が入学しPTAの役員として学校運営協議会に関わってきたが、先生方がこのような機会を設けて学校の運営に努力していることを知った。高校生活は生徒たちが大人として大きく羽ばたいていく狭間の大切な時期だ。PTAとしてもしっかりバックアップしていきたいと思うと同時に、先生方の指導もお願いして立派な子供たちを育てていきたいと思っている。

○後藤委員長

全体として学校のホームページやSNSからの発信だけでは閲覧する対象が限定されてしまう。自治会の回覧板などを活用した積極的な情報発信を行ってほしい。

同様に中学校の先生方への情報発信の場として学校見学会など学校現場を見てもらうなど交流の場を設けてほしい。

そうしたことで、新校や工業高校・定時制の教育活動をより広く理解してもらえることに繋がるのではないかという意見が多かった。ぜひ今後の教育活動に反映させてもらいたい。

○石川校長

貴重なご意見に改めて再発見することがたくさんあった。

学校からの情報発信については新たにスタートする小田原北高校の情報も含め

て多くの卒業生の存在を念頭に含めながら近隣の地域自治会、市区町村へ丁寧に情報を発信していきたい。新校への理解を深めてもらうことで地域に愛される学校として成長していきたい。

新校のスタート時に予見される新入生・在校生のストレスに対しての軽減対策については、大井高校のこれまでの相談体制と本校の従来からある SC、SSW などのサポート体制をともに補完し合って安心できる学校生活がおくれるような環境づくりに努めたい。

最後に中学校の先生方に工業高校・定時制高校の理解を深めてもらう活動について貴重なご意見を頂いた。何とか実現に向けて取り組んでいきたい。

本日はありがとうございました。

石原副校長より事務連絡

次回の第3回学校運営協議会は来年3月に予定。

日程調整の連絡後開催日をあらためて連絡。

17時00分閉会

第2回 出席委員

後藤 宗治委員	神奈川工科大学教職教育センター支援室
小木 朝美委員	東栢山城北自治会長
宮内 宏人委員	桜井地区自治会連合会長
府川 悟志委員	小田原市役所市民部地域政策課職員
小林 大悟委員	小田原箱根商工会議所経営支援部経営支援二課長
栞原 光 委員	小田原市立桜井小学校長
富田 雅浩委員	小田原市立城北中学校長
小松 秀樹委員	P T A 会長
石川 晋吾委員	校長

第2回 参加職員

石原 英之	副校長
鎌田 千春	全日制教頭
佐藤 秀世	定時制教頭
秋澤 世津子	事務長
近藤 博	全日制 生活指導G教諭
能政 広毅	全日制 学校管理運営G総括教諭
中島 勉	全日制 進路指導G総括教諭
三浦 茂和	全日制 工業教育推進G総括教諭
杉山 弘明	全日制 生徒支援G総括教諭
鈴木 秀昭	全日制 学務G総括教諭

三浦 茂和	全日制	広報連携G総括教諭
千葉 正郎	定時制	生徒支援G総括教諭
井上 正隆	定時制	学務・管理G総括教諭
飯嶋 猛二	全日制	広報連携G（書記）